

余弦の和と積

きむら よしひろ
木村 嘉宏

§1. はじめに

正多角形について考察する中で、余弦の和と積について、興味深い計算結果を得たので紹介します。

§2. 余弦の和

$x^{2n+1}=1$ の虚数解を調べることににより、

$\sum_{k=1}^n \cos \frac{2k\pi}{2n+1} = -\frac{1}{2}$ であることを証明する。

まず、 n 次方程式の解と係数の関係について、整理しておく。

n 次方程式 $a_n x^n + a_{n-1} x^{n-1} + \dots + a_1 x + a_0 = 0$ が $x = a_1, a_2, \dots, a_n$ を解にもつとき

$$\begin{aligned} a_n x^n + a_{n-1} x^{n-1} + \dots + a_1 x + a_0 \\ = a_n (x - a_1)(x - a_2) \dots (x - a_n) \end{aligned}$$

ここで、 x^{n-1} の項の係数を比較すると

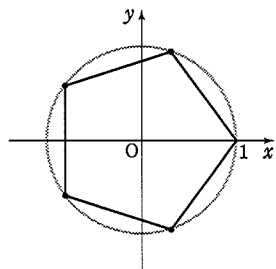
$$a_{n-1} = -a_n(a_1 + a_2 + \dots + a_n)$$

これより $a_1 + a_2 + \dots + a_n = -\frac{a_{n-1}}{a_n}$

では、具体的な例について考察してみる。

$x^5=1$ を満たす虚数解は

$$\begin{aligned} x = \cos \frac{2\pi}{5} + i \sin \frac{2\pi}{5}, \cos \frac{4\pi}{5} + i \sin \frac{4\pi}{5}, \\ \cos \frac{6\pi}{5} + i \sin \frac{6\pi}{5}, \cos \frac{8\pi}{5} + i \sin \frac{8\pi}{5} \end{aligned}$$



これらは

$$x^5 - 1 = (x - 1)(x^4 + x^3 + x^2 + x + 1) = 0$$

より $x^4 + x^3 + x^2 + x + 1 = 0$ の解であるから、解と係数の関係より

$$\begin{aligned} \left(\cos \frac{2\pi}{5} + i \sin \frac{2\pi}{5} \right) + \left(\cos \frac{4\pi}{5} + i \sin \frac{4\pi}{5} \right) \\ + \left(\cos \frac{6\pi}{5} + i \sin \frac{6\pi}{5} \right) + \left(\cos \frac{8\pi}{5} + i \sin \frac{8\pi}{5} \right) = -1 \end{aligned}$$

$\cos(2\pi - \theta) = \cos \theta$, $\sin(2\pi - \theta) = -\sin \theta$ であるから左辺を整理すると

$$2 \left(\cos \frac{2\pi}{5} + \cos \frac{4\pi}{5} \right) = -1$$

これより $\cos \frac{2\pi}{5} + \cos \frac{4\pi}{5} = -\frac{1}{2}$

同じ手法を用いて、次のように一般化できる。自然数 n に対して、 $x^{2n+1}=1$ を満たす虚数解は

$$x = \cos \frac{2k\pi}{2n+1} + i \sin \frac{2k\pi}{2n+1} \quad (k=1, 2, \dots, 2n)$$

これらは $x^{2n+1} - 1 = (x - 1)(x^{2n} + x^{2n-1} + \dots + x + 1) = 0$ より $x^{2n} + x^{2n-1} + \dots + x + 1 = 0$ の解であるから、解と係数の関係より

$$\sum_{k=1}^{2n} \left(\cos \frac{2k\pi}{2n+1} + i \sin \frac{2k\pi}{2n+1} \right) = -1$$

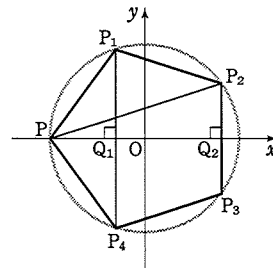
左辺を整理した上で、両辺に $\frac{1}{2}$ を掛けると

$$\sum_{k=1}^n \cos \frac{2k\pi}{2n+1} = -\frac{1}{2}$$

§3. 余弦の積

次に、余弦の積の計算結果を示す。

まず、正五角形を用いて、 $\cos \frac{\pi}{5} \cos \frac{2\pi}{5}$ の値を調べてみよう。



上の図において、正五角形の1辺の長さを l_1 , 対角線の長さを l_2 とすると

$$\angle P_2PQ_2 = \frac{\pi}{10}, \quad \angle P_1PQ_1 = \frac{3\pi}{10}$$

であるから

$$\sin \frac{\pi}{10} = \frac{l_1}{2l_2}, \quad \sin \frac{3\pi}{10} = \frac{l_2}{2l_1}$$

これより $\sin \frac{\pi}{10} \sin \frac{3\pi}{10} = \frac{1}{4}$

ここで

$$\sin \frac{\pi}{10} = \cos \left(\frac{\pi}{2} - \frac{\pi}{10} \right) = \cos \frac{2\pi}{5}$$

$$\sin \frac{3\pi}{10} = \cos \left(\frac{\pi}{2} - \frac{3\pi}{10} \right) = \cos \frac{\pi}{5}$$

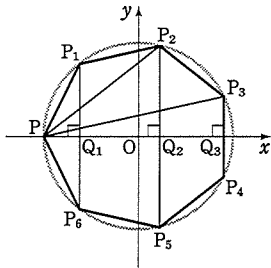
であるから

$$\cos \frac{\pi}{5} \cos \frac{2\pi}{5} = \frac{1}{4}$$

同じようにして、正七角形を用いると

$$\cos \frac{\pi}{7} \cos \frac{2\pi}{7} \cos \frac{3\pi}{7}$$

の値を求めることができる。



上の図において、正七角形の1辺の長さを l_1 , 対角線の長さを短い順に l_2, l_3 とすると

$$\angle P_3PQ_3 = \frac{\pi}{14}, \quad \angle P_2PQ_2 = \frac{3\pi}{14}, \quad \angle P_1PQ_1 = \frac{5\pi}{14}$$

であるから

$$\sin \frac{\pi}{14} = \frac{l_1}{2l_3}, \quad \sin \frac{3\pi}{14} = \frac{l_3}{2l_2}, \quad \sin \frac{5\pi}{14} = \frac{l_2}{2l_1}$$

これより $\sin \frac{\pi}{14} \sin \frac{3\pi}{14} \sin \frac{5\pi}{14} = \frac{1}{8}$

ここで

$$\sin \frac{\pi}{14} = \cos \left(\frac{\pi}{2} - \frac{\pi}{14} \right) = \cos \frac{3\pi}{7}$$

$$\sin \frac{3\pi}{14} = \cos \left(\frac{\pi}{2} - \frac{3\pi}{14} \right) = \cos \frac{2\pi}{7}$$

$$\sin \frac{5\pi}{14} = \cos \left(\frac{\pi}{2} - \frac{5\pi}{14} \right) = \cos \frac{\pi}{7}$$

であるから

$$\cos \frac{\pi}{7} \cos \frac{2\pi}{7} \cos \frac{3\pi}{7} = \frac{1}{8}$$

正九角形においては、1辺の長さを l_1 , 対角線の長さを短いものから順に l_2, l_3, l_4 とすると

$$\sin \frac{\pi}{18} \sin \frac{3\pi}{18} \sin \frac{5\pi}{18} \sin \frac{7\pi}{18}$$

$$= \frac{l_1}{2l_4} \cdot \frac{l_3}{2l_3} \cdot \frac{l_4}{2l_2} \cdot \frac{l_2}{2l_1} = \frac{1}{16}$$

となる。

$$\sin \frac{(2k-1)\pi}{18} = \cos \left\{ \frac{\pi}{2} - \frac{(2k-1)\pi}{18} \right\} = \cos \frac{(5-k)\pi}{9}$$

であるから

$$\cos \frac{\pi}{9} \cos \frac{2\pi}{9} \cos \frac{3\pi}{9} \cos \frac{4\pi}{9} = \frac{1}{16}$$

一般に、正 $2n+1$ 角形 ($n=2, 3, 4, \dots$) の1辺の長さを l_1 , 対角線の長さを短い順に l_2, l_3, \dots, l_n とすると

$$\sin \frac{\pi}{4n+2} = \frac{l_1}{2l_n} \quad \leftarrow l_{2m-1} \text{ 昇順}$$

$$\sin \frac{3\pi}{4n+2} = \frac{l_3}{2l_{n-1}}$$

$$\sin \frac{5\pi}{4n+2} = \frac{l_5}{2l_{n-2}}$$

$$\dots$$

$$\dots$$

$$\sin \frac{(2n-5)\pi}{4n+2} = \frac{l_6}{2l_3} \quad \leftarrow l_{2m} \text{ 降順}$$

$$\sin \frac{(2n-3)\pi}{4n+2} = \frac{l_4}{2l_2}$$

$$\sin \frac{(2n-1)\pi}{4n+2} = \frac{l_2}{2l_1}$$

これらを掛け合わせると、分母分子ともに l_1 から l_n までの積が生じ、約分すると計算結果は $\frac{1}{2^n}$ となる。

$$\sin \frac{(2k-1)\pi}{4n+2} = \cos \left\{ \frac{\pi}{2} - \frac{(2k-1)\pi}{4n+2} \right\}$$

$$= \cos \frac{(n-k+1)\pi}{2n+1} \quad (k=1, 2, 3, \dots, n) \text{ であるから}$$

$$\cos \frac{\pi}{2n+1} \cos \frac{2\pi}{2n+1} \dots \cos \frac{n\pi}{2n+1} = \frac{1}{2^n} \quad \text{なお,}$$

$\cos \frac{\pi}{3} = \frac{1}{2}$ であるから、この等式は $n=1$ の場合も成り立つ。

(京都府立網野高等学校間人分校)